

 伊藤組土建株式会社

会社案内





北の大地から、 未来へ。

1893年、
札幌の地で土木建築請負業としてスタートした伊藤組土建は、
北海道を拠点に事業活動を展開するなかで
地域に深く根を下ろしてきました。
明治の創業から、大正、昭和、平成を駆け抜け、現在、
令和という新たなフィールドで次の未来を模索しています。
創業130年の歴史を誇る
業界最古参の企業としての矜持を胸に
北海道の開拓とともに歩んだパイオニア精神に
さらに磨きをかけていきます。
建設業を通じた社会貢献はもとより
変化する時代への対応や技術の研鑽、環境との共生は
私たちの普遍的なテーマ。
この先も、豊かな社会環境づくりに寄与すべく
伊藤組土建は跳び続けます。

大倉山ジャンプ競技場

国際的な競技基準に則った助走路の施工にあたり、専門知識と特殊な技術が要求されるジャンプ台工事において、伊藤組土建は多くの実績をあげています。



MESSAGE FROM THE PRESIDENT

トップメッセージ

伝統と改革のバランスを保ち、 新しい時代を支える企業へ

コロナ禍がもたらした新しい日常は、人々の価値観を大きく変えました。時代に即した改革は企業にとっても重要課題で、とくに、我々昭和の世代は古い慣習に捉われず、若い社員が何事にもチャレンジできる環境を整えていくことが大切だと考えます。失敗しても怯まず、それを糧に次に向かっていける。そんな寛容で風通しのいい体質づくりが人を育て、企業の成長につながるからです。

真面目で穏やか。建設業界においてそう評されることの多い私たちですが、「責任観念」「誠心誠意」を社是に掲げ地域社会に尽くしてきた先達の精神が、自ずと社風に表れているのかもしれません。行動のすべてに説明がつき、高い技術で業務を遂行し、メンテナンスにもしっかり責任を持つ。当たり前のことですが、こうした実直さが明治から続く130年の歩みを支えてきたのです。

持続可能な社会への対応が大前提とされるなか、当社でもさまざまな取り組みを進めています。たとえば、カーボンニュートラルに関しては自社で排出するCO₂量を把握し、削減の目標数値を定めるなど具体的に戦略化。働き方改革については業務量の30%削減を目標に、効率化やデジタル化を推進しています。

これからの北海道は大きな可能性を秘めているといえます。北海道新幹線の開通による道外からの企業誘致への期待に加え、ニセコに代表される外国資本の参入も大いに注目されるところです。伊藤組土建は協力関係にある地域の企業の皆さまとも連携しながら、持てる技術と誠実さで北海道のさらなる発展に貢献してまいります。

代表取締役社長 大谷 正則

経営理念

社員の安寧と幸福を願い、
最良の作品を世に遺し、
社業の発展を通して社会に貢献する。

経営基本方針

全社的総合力を発揮し、
絶えざる革新によって作品の品質を保証し、
責任観念と誠心誠意をモットーとして
永遠の繁栄を図り、
次の方針を全社に明示する。

1. 意識の高揚を図り全員参加による
希望に満ちた経営を目指す。

1. 幅広い情報活動と営業力の強化を図り
受注の拡大を目指す。

1. 創意工夫をこらし、最良の品質と
低コストにより収益を確保し競争力を増す。

責任観念

それぞれの職務には責任が伴い
しかもその責任は
極めて大である。
職務の遂行には
関係部署との連絡を
密にすることはもとより、
他人に頼らず、
勇気と創造性をもって
積極的に取り組み
全力を挙げなければならない。

誠心誠意

すべて正直を柱とし、
自分に厳しく
誇張、虚言を戒め、
公正に行うことが
職務遂行の根本である。
常に研さんを積み、教養を高め、
豊かな心で相互の信頼を深め
いかなる事態にあっても
まごころを以て
最善の努力をしなければならない。

伊藤組土建株式会社は
持続可能な開発目標（SDGs）を
支援しています。

私たちは、今後の活動をSDGsと照らし合わせながら
目標達成のため新たな取り組みにチャレンジしてまいります。
これからも「選ばれ続ける会社」であるため、
地球環境と社会の持続可能性に企業として
2030年までの目標に向けて取り組んでまいります。



総合建設業としての力をフルに発揮し、 多彩なプロジェクトにお応えします。

伊藤組土建はさまざまなプロジェクトにおいて、
持続可能な開発を意識し、総合力と技術力を基盤に
事業を推進しています。それを支えるのが
「総務本部」「営業本部」「建築本部」
「土木本部」「東京支店」の5つの柱です。
日々、進歩しつづける建設技術において、
つねに最先端技術を取り入れ、
未来をリードする
研究開発を行います。
それが、私ども伊藤組土建に
課せられた使命であり、
変わることもない
目標です。

総務本部

総務本部は、会社の事務業務および管理業務を担う部門です。各部門の業務が円滑かつ効果的に遂行されるよう支援します。

営業本部

建築・土木についての専門知識を持ったスタッフがお客様に最適な技術提案を行うとともに、そのニーズにきめ細かく対応させていただきます。

建築本部

創業以来、時代をリードするパイオニアとして数多くの歴史的建造物にその名を刻みました。これからも、環境、医療、福祉と時代のニーズに最新の建築技術で対応します。

土木本部

常に自然と向き合い、人と環境のバランスの取れた基盤整備を目標としています。過去の施工DATAから自然環境に配慮した施工計画で工事を運営します。

東京支店

北海道のみならず東京や他の地域でも対応できる体制が整っています。土地による特性の違いなども把握した上でのご提案ができます。

伊藤組の強み

環境

環境負荷低減、 再生可能エネルギーの活用

水素自動車の導入

環境保全の取り組みの一環として、二酸化炭素や窒素酸化物などの有害物質を排出しない燃料電池自動車を社有車として導入し、活用しています。会社としても水素エネルギー事業に積極的に取り組んでいます。



水素自動車「MIRAI」



植樹会の開催

毎年、北海道内の伊藤組山林にて植樹会を開催しています。この活動は社員だけでなく、社員の家族にも参加してもらい、環境保全の大切さを次代の子供達へ伝える意味も込めて行っている活動です。

太陽光発電事業

太陽光発電は、無尽蔵に降り注ぐ太陽光を太陽電池パネルを使って電気に変換するシステムです。二酸化炭素をほとんど排出しないクリーンなエネルギーの代表と言える発電事業に取り組んでいます。



技術

最新技術導入による 生産性の飛躍的向上

ハイブリッド養生システム

当社では、技術開発を行い、新技術を生み出しており、トンネル覆工コンクリートの高品質化を図る「ハイブリッド養生システム」を開発し、活用しています。

NETIS登録番号:HK-190001-A



見晴トンネル

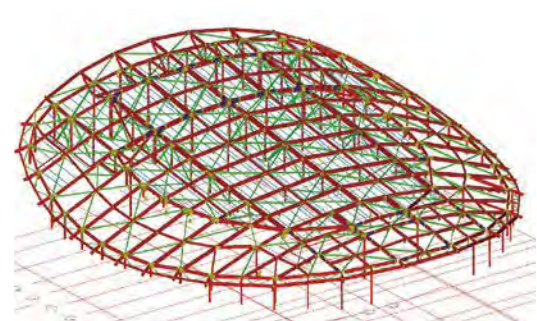
換気廃熱利用

建物の換気扇の廃熱を熱交換器によって回収し、ロードヒーティングや住宅のスノーダクトの凍結防止、ビルの屋上笠木や窓周りの雪庇予防等に利用しています。灯油式ロードヒーティングと比較するとランニングコストは、約89%の削減。灯油ボイラーや灯油タンクの設置も不要です。屋外に捨てていた熱の約6割を有効に回収利用でき、1か月あたりの二酸化炭素削減効果は265.2kg相当です。これは、普通自動車で1,378kmの走行分に相当します。(36㎡をロードヒーティングした場合) 特許第4397427号

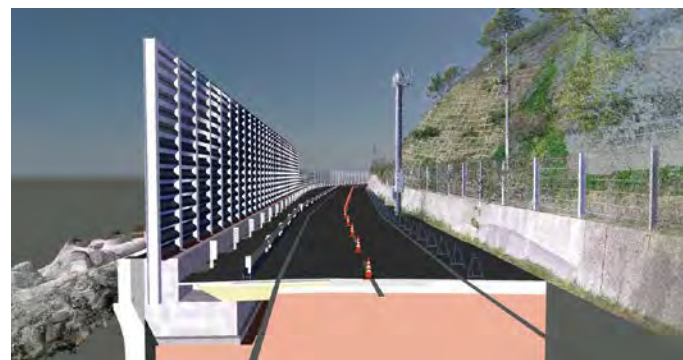


BIM/CIMの導入

BIM/CIMは、計画、調査、設計段階から3次元モデルを導入することにより、その後の施工、維持管理の各段階においても3次元モデルを連携・発展させて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にし、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図るものです。当社では、工場現場の施工中、施工後のデータを付与した3次元モデルを作成して管理しています。



国立民族共生公園体験交流ホール BIMデータ画像



3D画像

耐震診断・耐震補強

近年、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震など大規模地震が頻発しており、いづどこで地震が発生してもおかしくない状況です。既存の建物をそのまま活かしながら、建物の耐久性を高めることで、持続可能な社会に、まちづくりに貢献しています。

改修前



改修後



地下鉄南北線澄川駅

大規模修繕・改修

「既存の建物を大切に維持する」

当社は、各種修繕工事はもちろん、建物診断・施設の用途変更に伴うリノベーション・コンバージョンなど、様々な要望に応えた工事を行っています。



地下鉄南北線真駒内駅

再開発事業

権利者の財産と生活を守りながら共同で建替えを行い、行政とのパートナーシップで都市をよみがえらせていく再開発事業を行っています。



伊藤組鉄工(株)発足、
伊藤組木材(株)発足(1947)
伊藤組土建(株)発足(1946)

伊藤豊次、
2代目店主に就任(1923)

伊藤組事務所として
北4条西4丁目
新築移転(1919)

苗穂に鍛冶工場を併設した
製材工場開設(1909)

伊藤亀太郎、札幌に
土木建築請負業を創業(1893)

伊藤組の歩み



1898

ジョン・バチェラー博士邸



1902

旭川偕行社



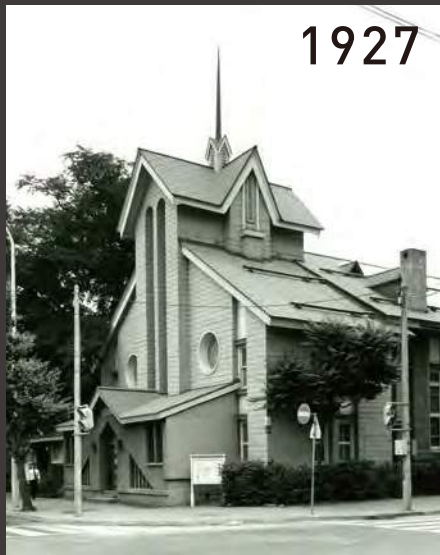
1908

札幌駅舎



1922

北海タイムス社



1927

日本基督教会北一条教会



1923

北海道拓殖銀行小樽支店



1934

小樽駅本屋



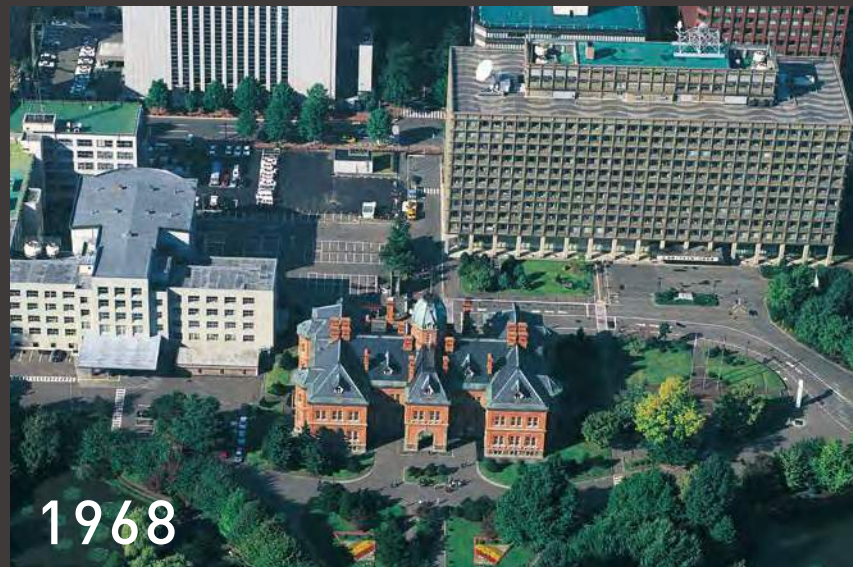
1970

真駒内スピードスケート競技場



1934

旧札幌線石狩川橋梁



1968

北海道新本庁舎

地方自治法の施行により、
北海道庁を
北海道と改称(1947)
昭和南山噴火(1944)

札幌と東京間に
定期航空路開設(1937)
北海道の人口、
300万人を超える(1934)

札幌と東京間の
電話開通(1926)
十勝岳大爆発(1926)

札幌・函館・小樽・旭川・
室蘭、釧路に市制施行(1922)

北海道区制、
一級町村と二級町村制公布、
郡役所を廃止し、
19支庁を置く(1897)

道庁赤れんが庁舎
新築落成(1888)

3県1局を廃止、
北海道庁設置(1886)

開拓使を廃止、
3県設置(1882)
札幌と手宮(小樽)間
鉄道開通(1880)

札幌農学校開校(1876)

屯田憲兵例則制定(1874)
亀田と札幌間の新道
(札幌本道)完成(1873)

開拓使庁を札幌に置く(1871)
蝦夷地を北海道と改称(1869)
新政府誕生(1868)

北海道のどきどき

伊藤組の歩み

伊藤組創業130周年(2025)
代表取締役社長に
大谷正則就任(2022)
伊藤組創業120周年(2013)
伊藤組歴史館開館(2013)
取締役社長に
玉木勝美就任(2013)
取締役社長に津司武就任(2010)
取締役社長に
平野良弘就任(2008)
伊藤組創業110周年(2003)
伊藤110ビル竣工(2003)
取締役社長に吉野龍男就任(2002)
伊藤組創業100周年(1993)
(株)伊藤コーポレーション
設立(1991)
テレビ北海道TVh開局(1989)
第5伊藤ビル竣工(1989)
テレビ北海道TVh設立(1988)
Ito Group USA
Corporation設立(1985)
ボートリント事務所開設(1985)
西村国際ビルが札幌国際ビル(株)に
名称変更(1983)
伊藤組創業90周年(1983)
西村国際ビル(株)設立(1972)
(株)札幌国際ホテル開業(1971)
伊藤・加藤ビル竣工(1971)
東京出張所が
東京支店に昇格(1964)
伊藤組創業70周年、
伊藤組本社新社屋竣工式(1963)
(株)伊藤組設立(1961)
伊藤義郎 伊藤組グループ各社の
代表取締役就任、
伊藤豊次 伊藤組グループ各社の
会長に就任(1956)
伊藤組農林(株)発足(1954)

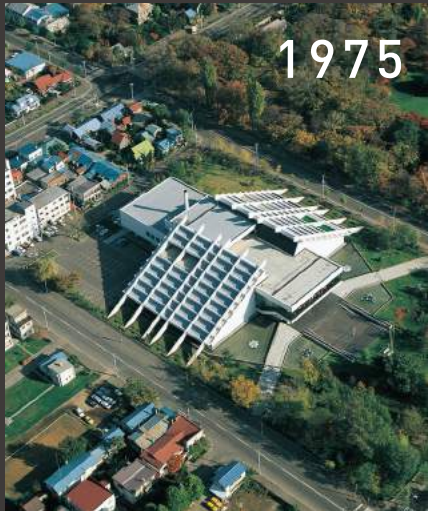
手がけた主な工事



伊藤ビル



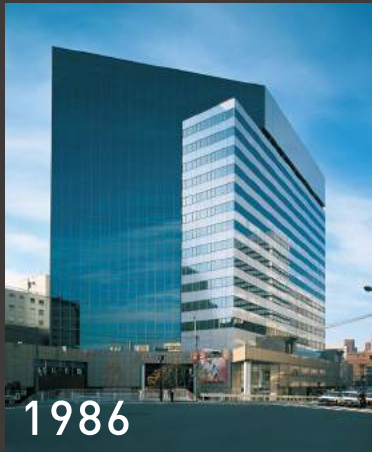
札幌市青少年科学館



北海道立近代美術館



札幌厚生病院



アスティ45ビル



第5伊藤ビル・テレビ北海道



幌平橋



モエレ沼公園 ガラスのピラミッド



幕別太陽光発電所



伊藤110ビル



札幌市立北九条小学校



ラ・トゥール札幌伊藤ガーデン



国立民族共生公園体験交流ホール

北海道のどきんと

札幌市市政100周年(2022)
北海道胆振東部地震発生(2018)
北海道150年記念式典(2018)
第8回アジア冬季大会を
札幌で開催(2017)
北海道新幹線開業
新青森〜新函館北斗間(2016)
札幌市の人口が
190万人を突破(2009)
北海道洞爺湖サミット(2008)
FISノルディックスキー世界選手権
札幌大会(2007)
知床半島が
世界自然遺産に登録(2005)
日本ハムファイターズが本拠地を
札幌市に移転(2004)
有珠山噴火(2000)
北海道南西沖地震発生(1993)
第2回アジア冬季大会を
札幌で開催(1990)
青函トンネル開業、
新千歳空港(民間専用空港)
開港(1988)
札幌市営地下鉄東豊線開業
栄町駅〜豊水すすきの駅間(1988)
有珠山噴火(1977)
札幌市営地下鉄東西線開業
琴似駅〜白石駅間(1976)
冬季オリンピック
札幌大会開催(1972)
札幌市営地下鉄南北線開業
北24条駅〜真駒内駅間(1971)
北海道百年記念祝典開催(1968)
札幌テレビ塔開業(1957)
青函トンネル工事の
起工式(1954)
北海道開発法を公布、
北海道開発庁を設置、
第1回札幌雪まつり開催(1950)



恵佑会札幌病院(札幌市)

医療
施設



華岡青洲記念病院
(札幌市)

幌東病院(札幌市)



札幌南整形外科病院(札幌市)



居住
施設

ラ・トゥール
札幌伊藤ガーデン
(札幌市)



イリス北10条(札幌市)

再開発



さっぽろ創世スクエア(札幌市)

文化
施設

国立民族共生公園体験交流ホール(白老町)



教育
施設



札幌市立中央小学校(札幌市)



開智望小学校・中等教育学校(つくばみらい市)



札幌医科大学教育研究施設(札幌市)

商業
レジャー
オフィス



キロリゾート
コンドミニアム
(赤井川村)



ジャパンテクニカルソフトウェア(札幌市)

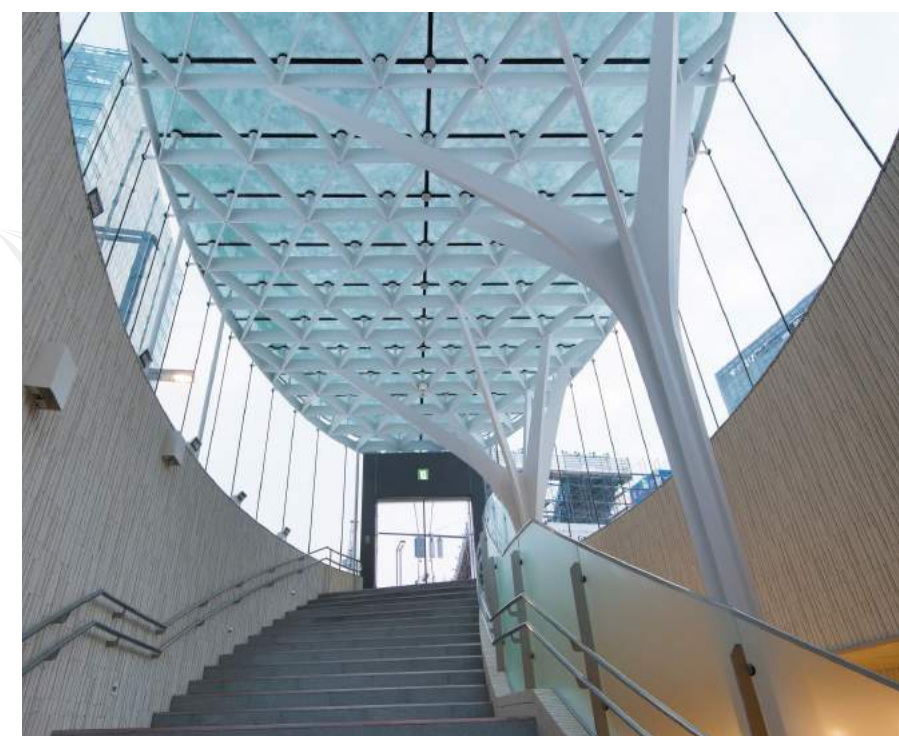


FENIX FURANO(富良野市)

官公庁
公共施設



大通交流拠点 左:地上出入口 右:地下空間(札幌市)



新千歳空港国際線ターミナルビル(千歳市)



自衛隊前駅耐震改修(札幌市)



苗穂駅(札幌市)



北海道議会庁舎(札幌市)

土木工事

河川



豊平川取水堰(札幌市)



音江別築堤護岸(北広島市)



然別川災害復旧(音更町)



三軒屋樋門(浦臼町)



逢坂樋門(長沼町)

スポーツ
リゾート



キロロリゾート(赤井川村)



蔵王ジャンプ台(山形市)



大倉山ジャンプ台(札幌市)



モエレ沼公園噴水(札幌市)

都市
施設



札幌駅前通地下歩行空間(札幌市)



石狩西部浄水場(当別町)

土地
造成



大曲造成(北広島市)

ダム
発電所



庶路ダム(白糠町)



杵臼ダム(栗山町)



新桂沢ダム(三笠市)



滝の上発電所(夕張市)

防災



床丹南防波柵(石狩市)



厚真町富里災害関連(厚真町)

鉄道



北海道新幹線重内工区(知内町)

道路
橋梁
トンネル



野幌高架(江別市)



東湖畔トンネル(壮瞥町)



新千歳空港誘導路アンダーパス(千歳市)



常呂橋(北見市)



新石狩大橋(江別市)



創成川アンダーパス(札幌市)

COMPANY PROFILE

会社概要

商号	伊藤組土建株式会社
所在地	〒060-8554 札幌市中央区北4条西4丁目1番地
創業	明治26年5月26日(1893年)
設立	昭和21年2月18日(1946年)
資本金	10億円
事業内容	1. 建設業 2. 宅地建物取引業 3. 建築の設計および工事監理 4. 建設工事用機械器具、資材の製作、販売、賃貸および修理 5. 自然エネルギー等を利用した発電・送電業務および電力の販売、並びに発電に係る設備の設置、運用および保守管理業務 6. 建設工事に関する調査、企画、研究、評価、診断、地質調査、測量、設計、監理、マネジメントおよびコンサルティング業務 7. 知的財産権(特許権、実用新案権、意匠権等)の実施、使用、利用許諾、維持、管理 8. 不動産管理業 9. 前各号に関連する事業
登録	特定建設業許可 土木工事業/建築工事業/とび・土工工事業/電気工事業/管工事業/タイル・れんが・ブロック工事業/鋼構造物工事業/舗装工事業/しゅんせつ工事業/塗装工事業/防水工事業/内装仕上工事業/造園工事業/水道施設工事業/解体工事業 宅地建物取引業者 一級建築士事務所 建設コンサルタント登録
グループ企業	株式会社伊藤組 札幌市中央区北4条西4丁目1番地 011-261-6111 伊藤組山林管理育成株式会社 札幌市中央区北4条西4丁目1番地 011-241-9238 札幌国際ビル株式会社 札幌市中央区北4条西4丁目1番地 011-221-4488

伊藤組土建株式会社
〒060-8554
札幌市中央区北4条西4丁目1番地
TEL 011-241-8477(代)

TO
THE
FUTURE

<https://www.itogumi.co.jp>

